

年次報告書

marizakidzukuri report 2018

2018

NPO法人子どもへのまなざし



ありがとうございます！

10th

これからも子どもへのまなざしを
よろしくお願いします！



Mission
「子どもが主人公の居場所」を創り続けよう！
子どもがいるからつながる「人の輪」を広げよう！

Vision
子どもを真ん中に考える社会へ

二〇一八年七月一日「日野市子ども条例」は施行から一〇年を迎えるました。導入は、「日野市子ども条例」と「フレーバークなかだの森であそぼう！」は、同じくして生まれたのです。

当団体の活動「子どもが主人公の居場所づくり」は、まさに「子どもの権利」を保障するために地域の大人が力を合わせて継続してきました。

振り返れば、日野市子ども条例一周年記念イベントは、企画内容から行政担当者と話し合って「なにかだの森」で実施しました。

そして、昨年の一〇周年記念イベントでは、条例策定のために集まつた「おとな会議」のメンバーである八木さん、伊藤さんからこの条例に込めたかった想いを聞き取る役割を理事の小島が務める機会を持ちました。

その中で育された子どもにとって一番よいことを最優先に考えるまち」を創るという想いは、まさに私たちが目指してきたことです。

子ども条例は掲げているだけでは意味がありません。私たちは、具体的な活動として「子どものありのままを受け止める居場所」「子どもがひとりの人として尊重される居場所」を創り出していました。

子ども時代を保障するのは私たち大人の義務です。それは決して大人の都合で解説されたり、否められではないのです。

昨年子ども条例に觸わることができたことで園体の活動の意義を改めて噛みしめることができます。

子どもたちを巡る現状は、残念ながら一〇年前と比べて決して良くなつたとは言えません。悲しい事件も後を絶ちません。これからも、この場を必要としている人たちとの新しい出会いと活動の中で出会つた一人ひとりを大切に歩んでいきたいと思います。

2018年振り返って…

これからも皆さんとともに…会員ご寄付のお礼 26

決算報告・二〇一八年度を振り返って 24

*
次の時代を生きる子どもたちにとって大切なことについての情報発信事業 23

子どもがいるからつながる「人の輪」事業 23

なかだの森蚕糸公園等清掃管理事業 22

同じ目的を持つ個人や他団体との協働事業 20

子どもの育ちを社会で支える学習会の開催及び講師派遣事業 18

子ども時代のあそびを保障する場の設置・運営事業「あそべー子どもたち！」 14

親子で育ち合う場の設置・運営事業「野外保育『まめのめ』」 12

子どもが主人公の居場所の設置・運営事業「なかだの森であそぼう！」 10

事務局を移転しました 「新たな地で再スタート」 4

* 特集・対談「あそび場づくりの現場から」 6

新たな地で再スタート

引っ越しました。

一〇一八年四月、長年親しまれてきた万福寺の活動拠点から移転することが決まりました。長い期間使用できる場所ではないことを承知の上でお借りする契約を結びましたので、すぐに移転先を探し始めました。

一〇一六年から「いつかは必ず来る拠点移転に備えるために、日野市の空き家政策の取り組み報告会・個別相談会に出席し情報収集をしていました。市では、空き家の多面的な活用に向けており、地域「ミコニテ」活性化につながるような空き家活用の取り組みを始めたばかりでした。その報告会の中で、他市では空き家を活用して地域の居場所としている事例があること、日野市は家主と借主を結ぶマッチング事業を今後行っていくことを聞き取れることになりました。市に相談をするとどうぞ連絡肢拠点を移転することになった場合、市に相談をすることもあります。

移転が決定してすぐに空き家活用希望者として登録。一〇件近くの物件をご紹介いただきました。それと平行して、日野市内の不動産業者にも問い合わせ、全部で二〇件近くの物件を検討しました。しかしながら、最も一長一短があり、決めあぐねていました。万葉寺の栗林は立地条件や周囲の環境など理想的で同じものを探ることはできないとわかりながら、やはり比べてしまうのです。

古民家との出会いは本当に運命でした。元々、別の方が活用する方向で話が進んでいましたが、やりを得ない事情によりその計画が急速中止。ちょうどその頃、私たちが物件を探していた時期と重なり、ご紹介をいただいたのです。この出会いがなかったらどうなっていたのか、見当もつきません。尽力いただいた多くの方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。



- 一〇一八年
引っこしまでのスケジュール
- 四月 日野市都市計画課に相談
- 五月 空き家活用マッチング事業登録
- 物件の紹介を受ける
- 日野市内不動産業者数件にあたる
- 六月 保育園の見学 検討
- 七月 延滞料の決定
- 八月 正式に買賣契約を締結
- 九月 古民家の入居に向けての準備
- 十月 野外教育「まめのめ」㏌拠点移転
- 十一月 万葉寺栗林でのお別れ会
- 一月 地址石ひろめ金の開催



▲1月20日(日)地域の方をお招きして、おもちつきを実施しました。

これから・「原点に戻つて」



西平山をさむ鶴台小学校は、現在、区画整理の真っ最中です。かつては田んぼや畑が広がっていましたが、今は新しい住宅が建ち並び、道路の建設が進んでいます。日野市の中でも高齢化率が高い地域ですが、これからは若い子育て世帯が増えしていくことも予想されます。

西平山での地域貢献を考えていくときに、先に頭に浮かんだのは「原点に戻ること」でした。思えば一〇年前、まだブレーバークという存在すら知りなかつた頃、最初に行つたのは「子育ての中の人の話を聞く」とことでした。

今子育てをしていく中で感じていることを語り、その中から自分たちができるところを見つけていく。今まで私たちが培ってきたことを、ここ西平山でも実践していきたいと考えています。新しい場所を開拓していくことは、新たな出会いの場でもあります。出会っていない人たちが、まだまだ沢山います。これから皆さんといつしょに知恵を絞って、新たな「ミコニテ」づくりに取り組んできたいと思います。

*出典 「多摩のあゆみ第一七〇号」
翻訳：たましん地福音会

古民家のこと



▲地域お祭り会の様子。当時は正牌自治会の皆さまをはじめ、日野市役所担当課の方、日野市認活動課係の方をお招きしました。

西平山の古民家は、以前はシェアハウス兼イベントスペースとして利用できる場として「ヒューマンオフィス」と呼ばれていた場所でした。

旧七生村第五代・村長であった高橋茂吉氏の隠居所として建てられたとのことです。(※)

二階から天窓を眺めていると、当時の方たちと同じ景色を見ている気持になります。

大きな梁や障子、床の間など日本家庭の特徴が存分に取り入れられていて、一步足を踏み入れるとまるで祖父母の家の帰ってきたような気がします。

しさが感じられます。

(※)

西平山の古民家は、以前はシェアハウス兼イベ

ントスペースとして利用できる場として「ヒューマ

ンオフィス」と呼ばれていた場所でした。

旧七生村第五代・村長であった高橋茂吉氏の隠

居所として建てられたとのことです。(※)

二階から天窓を眺めていると、当時の方たち

と同じ景色を見ている気持になります。

大きな梁や障子、床の間など日本家庭の特徴

が存分に取り入れられていて、一步足を踏み入れるとまるで祖父母の家の帰ってきたような気が

しさが感じられます。

(※)

西平山の古民家は、以前はシェアハウス兼イベ

ントスペースとして利用できる場として「ヒューマ

ンオフィス」と呼ばれていた場所でした。

旧七生村第五代・村長であった高橋茂吉氏の隠

居所として建てられたとのことです。(※)

二階から天窓を眺めていると、当時の方たち

と同じ景色を見ている気持になります。

大きな梁や障子、床の間など日本家庭の特徴

が存分に取り入れられていて、一步足を踏み入れるとまるで祖父母の家の帰ってきたような気が

しさが感じられます。

(※)

西平山の古民家は、以前はシェアハウス兼イベ

ントスペースとして利用できる場として「ヒューマ

ンオフィス」と呼ばれていた場所でした。

旧七生村第五代・村長であった高橋茂吉氏の隠

居所として建てられたとのことです。(※)

二階から天窓を眺めていると、当時の方たち

と同じ景色を見ている気持になります。

大きな梁や障子、床の間など日本家庭の特徴

が存分に取り入れられていて、一步足を踏み入れるとまるで祖父母の家の帰ってきたような気が

しさが感じられます。

(※)

あそび場づくりの現場から

なかだの森であそぼう第一回を開催したのが平成二十二年（六月）一〇日。早いもので、あれから十年が過ぎました。そして、あそび場づくりを続けてきたことが、さらに活動を広げることにつながっています。

今回、それぞれの地域であそび場づくりに挑戦している三人（ともちゃん、まめちゃん、ふみかちゃん）と、かれこれ二〇年もブレーリーダーとしてあそび場づくりに開拓りつづけていたたもつに集まつてもらい、「今感じていることを語つてもらいました。聞き役を私、ひろみん（当団体代表 中川ひろみ）がつとめました。

ひろみ 今日はもうしくお騒がします。あまり硬くならずに、今の気持ちを聞かせて欲しいな

あ。みんなはもうやれくらひ活動してるの？

とも 百草こじむ村を始めて、もう六年目。全えー六年すぐそこへもうそんなになるの？

とも うそじやないよね、盛つてほしよね、つて自分でじつも思つんだけど（笑）。

まめ ことな広場は三年目かな。

とも でも二年経つんだね。

ふみか 私は、多摩市でやり始めたばかりで、毎回四回です。

ひろみ あそび場が必要だなって思つたきっかけはなんだったの？

とも 「なかだの森」で親子で育ち、上の子が小学生になって、誰も同じ幼稚園から入学した人がいなくて、近所でもあまり知つてゐる人がいない中で、「さて、わが子は放課後、誰と関わつていくんだろう…」といふ孤独感があつて…。

「なかだの森」に行くには車で一〇分。とにかく、自分の足で子どもが気楽に行ける場所に、「なかだの森」ところを創りたいという気持ちが生まれた。

ひろみ 今日はまるしくお騒がします。あまり硬くならずに、今の気持ちを聞かせて欲しいな

あ。みんなはもうやれくらひ活動してるの？

とも 百草こじむ村を始めて、もう六年目。全えー六年すぐそこへもうそんなになるの？

とも うそじやないよね、盛つてほしよね、つて自分でじつも思つんだけど（笑）。

まめ ことな広場は三年目かな。

とも でも二年経つんだね。

ふみか 私は、多摩市でやり始めたばかりで、毎回四回です。

ひろみ 実際に活動をやつてみて、感じますか？」つて聞きまくつたら、い、いんじやないって言つてくれて。

波が来たなーやつちやおうかなつて、最初は近所の仲間と組くらひで内輪でやつてたんだけど、自分たちで楽しむだけじゃもつたひないなつて思つて、ちゅうとやってみようかなつて思つたのでした。

たもつ 僕は高校生の時、近所のお母さんがブレーバークを始めたと、家の中がぐぢやぐぢやで、家のなかがブレーバークだつてそんない感じで、家が壊れる外でやつてほし。他にも困つてお母さんがないはずだつて、ブレーバークをやるには若い子が欲しいと思つたらしくて、児童館の館長に声がかかるた。その頃、俺は児童館のボランティアリーダーをやつたが、館長が「こう、こう」とやりたいつて言つてお母さんがないからお前だ、とあります、話を聞いてこいつて送り出されて、その時に、ブレーリーダーのことを聞いたり、天野さん（※日本初のブレーリーダー）を呼んで話を聞いたりして、「そんな面白そうな公園があるんだつたら一緒にやつみたいなー」つて思つたのが一番最初。

学区にとらわれない友だち関係をつくるる場所

5分、10分だけ来て、しゃべつて「あ、時間だから行くわ」みたいな。

ひろみ なんか、ほつとしたいんだよね、

たもつ 僕は、あそび場と学区とにわかれない友連携を作りたいつて思つてる。

ひろみ なかだの森は大人が多いので、その大人の中に小学生がどう入つて、けじなの。でも、新しい人が来た時、入りにくじとうか、居づらいなつて入り口と思ふ人もいそだなつて。

たもつ 「なかだの森」は大人が多いので、その大人の中に小学生がどう入つて、けじなの。でも、新しい人が来た時、入りにくじとうか、居づらいなつて入り口と思ふ人もいそだなつて。

ひろみ 中学生の姿が見えるようになつて、必然的に他の大人とも絡むようにならうかな、それだったら、うまくいくかなつか。

ひろみ うちは、隣の小学校や違う学年の子が来て、うちの子は恥ずかしがり屋



的じゃなくて、この場が必要だと思つた人が

昨日も18時くらいに来て、塾行く前に

だから、いつもは誘われないとダメなのに、逆に自分から「ペーロマやろうぜ」とか言つちゃって。子どももちびスタッフなのがなつて思つたんだ。

この前も、私がロープやる暇がなかつたら5、6年生がワープして来て、ロープを掛けてくれるんですね。その前に、おじさんがロープを掛けくれて、それで木登りできた子たちが面白かつたって来てくれて、こうすると木に登りやすいかもつていろいろやつてくれて…。

私が知らない間にロープが垂かつていなくて子どもが面白かつたから勝手に作るんだなうて気がしました。



ひろみ そうか、知らないんだね。
たもつ 異年齢で遊ぶ時、ほい、妹とか弟とか入つて、るとき、ルール通りにすると、あそびが成り立たないときがあるじゃないですか。そんな時は、この子は「おみそ」ねつくりで、鬼ごっこなら捕まえても逃げちゃつてくれて…。

私が知らない間にロープが垂かつていなくて子どもが面白かつたから勝手に作るんだなうて気がしました。

ひろみ そうか、知らないんだね。
たもつ 今の子は、○○だけズルいって本気で怒りだすから小さい子が入れない。小さい子も一緒に遊んだ経験がないからなんですね。

全 へえ…

たもつ 今の子は、○○だけズルいって本気で怒りだすから小さい子が入れない。小さい子も一緒に遊んだ経験がないからなんですね。

ひろみ そうか、知らないんだね。
たもつ 百草こども村は水曜日開催で、小学校は4時間が多くんだよね。
だかい、子どもの方が先に来て、で、この前も近所のおじさんとちゃんとケンカしない子がいるんだけど、「ベンチとベンチの間が悪しかったんだって、石投げたのはいけなかつたけど、数が足りないと大変なことになつやうんだよね」って言つて。でも、それがつかつたらしくて、「ひめんも言わないと、あそびでやつれ行つてしまえ」とちゃんとが言つたが、俺たちの方が先に来てんだよー」と。
「うつせーんだよくそじい」とか目の前で言って、それからどうなるかなつて私はニヤニヤしながら見てたんだけど、「ああやつてお互いに言ふ合える感じがすごく心地よかつたの。

制限しなきや、管理しなきや、結論を出さなきや、つて、うつせーんだよくそじい、だいたい、子どもたちは、そんな子になるじゃん、だめんつて言つときなよ、みたいな、言いたい自分がやつて、他の子がボールを取ると、一年生とかに投げてみると、ボールを譲るんだって。それで、学童の先生に「なんでそんなことができるの?」って驚かれたんだけど、やっぱりフレーザーで小さい子も当たり前に一緒に遊んできたからじゃないかなあって。

たもつ 今の子は「おみそ」ができないんだよね。

全 「おみそ」で…

ことを大人に言えるっていうのは、守つていきたくなつて思つた。

ひろみ いろんな人が集まつてくるから、もちろん喜んでいたくて、いろいろ

持つててくれるんだけど、何も持つてこないで、ひつよつて伝えてます。やっぱり、あそびは子ども主体にならじとね。

ちやんのところに行つて、「もうえなかつたのに、ボクにだけくればならう」と。

子どもに聞いたら、「たつて鬼のお面を配つたのに、ボクにだけくればならう」と。

子どもの間に、ボクにだけくればならうと、

が悲しかつたんだって、石投げたのはいけなかつたけど、数が足りないと大変なことになつやうんだよね」って言つて。でも、それがつかつたらしくて、「ひめんも言わないと、あそびでやつれ行つてしまえ」とちゃんとが言つたが、俺たちの方が先に来てんだよー」と。

「うつせーんだよくそじい」とか目の前で言って、それからどうなるかなつて私はニヤニヤしながら見てたんだけど、「ああやつてお互いに言ふ合える感じがすごく心地よかつたの。

制限しなきや、管理しなきや、結論を出さなきや、つて、うつせーんだよくそじい、だいたい、子どもたちは、そんな子になるじゃん、だめんつて言つときなよ、みたいな、言いたい

自分がやつてるのをすんなり「フレーバークリテ」と言つて、それがやつてないんだけど…。

とも あー、分かる。その感覚。

たもつ うつせーんだよくそじい」とか目の前で、地面に字を書いて遊べるじゃん。

ふみか その場を活かすつていいよね。

たもつ でも、地面に字を書いて遊べるじゃん。

ふみか 始めた頃、たもつは、こんな風に地面に手狹すぎて、「フレーバークリテ」で言えなくなり、つて何年も言つてた。俺は、もともとアーリーダーになるつもりじゃなかつたし、うつせーんだよくそじい」とかの言つて、ほつてほつくなるよ。

たもつ うつせーんだよくそじい」とかの言つて、ほつてほつくなるよ。

ふみか うつせーんだよくそじい」とかの言つて、ほつてほつくなるよ。

たもつ うつせーんだよくそじい」とかの言つて、ほつてほつくなるよ。

なかだの森であそぼう！

2008
6/20(金)
「なかだの森であそぼう！」
第1回開催
大人20人、子ども23人
でスタートしました。



場所…仲田の森整備公園
開催日…毎週金曜日
時間…10時～17時
参加費無料
どなたでもどうぞ遊び場です。

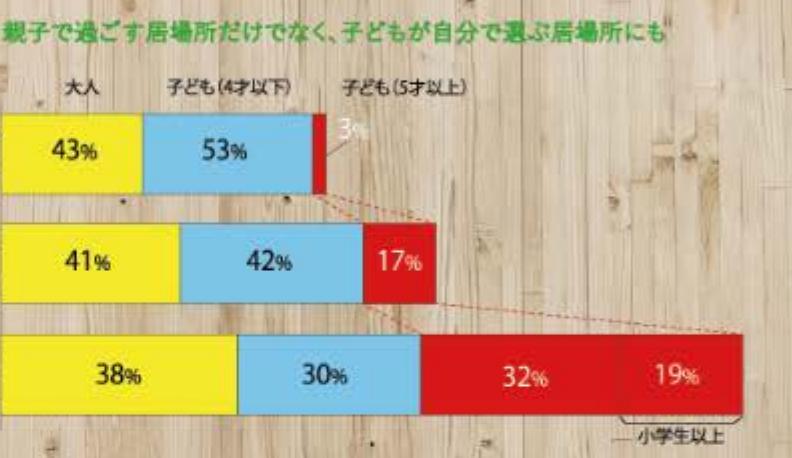
なぜ「子どもが主人公の居場所」が必要なのか

子どもたちが「やってみたい」と思うこと全てが「あそび」です。「やってみたい！」それは未知なることへの挑戦なので、失敗はつきもの。“危なっかしい”、“汚い”、“うるさい”と大人の都合であそびを制限してしまうことが自ら育とうとする力を奪ってしまうことになるのです。

「あそび」の中での子ども同士のケンカや失敗が大切だと思っていても、「迷惑をかけないよう」にと周りの目を気にして、子どもに口うるさく言わなくてはならない…そんなへとへとな毎日を送っているお母さんにたくさん出会ってきました。

たくさんのあたたかい
まなざしの中で育ち合う
子育ては一人ではできません。
子どもも、そして親だってたくさん温かいまなざしの中で育ちあうことが、今、とても大切だと考えていました。

豊かな子ども時代を過ごすためには、子どもたちが日常的に「やってみたい」という挑戦できる場を私たち大人が創りだす必要があります。



- ・森の母たちによるコンポストトイレ完成
- ・母たちによる「繪本の屋」を開催
- ・12月～ なかだの森が公園整備のため立ち入り禁止に。

- ・なかだの森 はじめてのお餅つき
- ・母たちによる「おはなしの森」を開催
- ・11月～ 月に2回、たもつが森に居るように

- ・4月～ 通年開催が始まる
- ・11/14(土) 日野市子ども条例1周年行事を「なかだの森であそぼう！」で開催する。



なかだの森通り6号より
毎回鍵を握りて入る
閉ざされた空間だったなかだの森
(2011年12月まで)

3/3(月) 「子どものあそびについて日々感じていることを語り合う会を子育て真っ最中の母たちが企画。

・12月、「なかだ鍋」がはじまる。

野外保育「まめのめ」

つながりに感謝して
さらに、新たな一步を。



野外保育「まめのめ」が大切にしていること

子どもの「今」と共に歩む
子どもを信じて受け入れる

親も子も育む合う関係づくり



一〇一八年度は「引っ越し運動をみんなで乗り越えた一年」とも言えではありません。何年前だったか「なめたの森」で講演を終えた柴田愛子さん（「りんこの木代役」）を「アッキ」と一人車で載せて送る途中、わざわざ方巣寺の栗林を回り、「まめのめ」の拠点を見ていたいたことがあります。車の中から栗林を一日見て「すいわねえ」とつて、「なめたの森」の木の大きさや水路の環境をすがり気に入ってその帰り道に立ち寄った栗林の併まいを見た時に思わず愛子さんの「口から出た言葉です。そつ、私たちは確かに出会いに恵まれています。

「いや、栗林もいつ出なくてはならないくなるか分からんんですね」と曰えると「りんこの木なんでも、公園も引っ越したわよー甘い甘い」と、そして「ついで、今、西平山の「まめの森」を見たい」とまた「するふ」と言われるだら「なあ」。近しうちに、愛子さんを西平山へお連れするぞーと密かに思つてじる私です。愛子さんが「家一棟一棟」と書いてじる我が家が来ちゃうのよ、と言つて、いたこともよく覚えています。横浜の街中で子どもを真ん中にした保育を実践している「つよいじの木」。そのお世話は並大抵ではないはず。裏を返すと子どもが子どもまんまで過ごすと「迷惑」と捉えられる時代になつてしましました。

はずですが、感謝の気持ちが一つになつて忘れられない時間となりました。

活動場所が変わるとどうことは、フィールドを一から開拓するということです。天候や季節によつて変化する野外でどう生き延びるか（笑）。いかにはワクワク過ごせるか。それはフィールドをよく知らない人ははじまりません。

自然環境だけでなく、いつも厳しい大人の目がある場所ではスタッフも子どもを管理する」とが最優先になります。

地域のあたたかいまなざしもとても重要です。関係づくりはまず挨拶から。そして、クリーン作戦。子どもたちと浅川土手の膨大なゴミを拾つて歩いています。思えば、これまでの多摩川でも

愛子さんは「お金を出してもらうと「何も出されないから」「りんこの木」は行政の幹に入らない」と貴様を決めて運営しているそうです。幼稚教育・保育無償化目前の今、苦悶が伸びた愛子さんのお話を何度も勇気づけられてきたことを改めて感じています。もちろん子育て家庭への負担を軽視してじるわけではありません。何とか選抜校の一つかなりたいとずっと思つきました。

「仲間と共に四分のやつでみたいことに挑戦できたと感じる毎日を積み重ねること」「子どもたちが栗林に登園する最終日」。その日栗林から京王線に乗り西平山の古民家に到着するごと、さつきまで栗林で座つていたイスが並んでいて「これからここがまめの森だよって。子どもたちの日常生活が途切れることを大切に準備しました。

そして、十月六日の日曜日。引っ越し作業を終えた夕方、栗林お別れ会に続々と集まつた懐かしい顔ぶれ。みんな力仕事をヘトヘトだった十日歩いてきました。

まずは「ミニ抬いかりだつたなあ」。

一〇一九年度は、栗林から引っ越ししなければならなかつた私たちを迎えてくれた西平山地域のために、これから私たちができることを構築する新たなステージに入ります。野外保育「まめのめ」は新しい地域でゼロからのスタートです。これまでの「〇年の積み重ね」つながりがあるからこそ新たなスタートでもあります。

これまでのつながりに感謝して、これから新たな一步につなげていきたい。まだまだ「まめのめ」は創り途中。試行錯誤の真っ最中を楽しみたいものです（ひろみ）

遊ぶことは、生きること。

ほめてのびる。

みとめて、そだつ。
確かに正しこ。

でも、それだけでは、子どももぬれとめつと濡しちこんだ。

私がまめのめ、じぶないと思つのは

できた、できなじ、合つてくる・間違つてくる、とはばかりの

まなざしで濡れているところです。

「ねえ、みてみて——」

子どもはおとなにくく言つ。

褒めて欲しいのか、認めて欲しいのか、

そうだけど、そうじゃない。

本当はね、きつと分かち合つたじ。

「ほいね、おもしろいじでしゃー」いつね。

小学4年生の頃、朝露を小瓶に集めて

満月の光に当てて持ち歩くと、じい事があるらしいと聞き

葉っぱについた露をひたすら集めてまわつてじた。

地味な遊びだけど、魔女になった京分で、

しづくでいっぽいの瓶に達成感さえ感じじるほど。

（在園児の母 やまとむ）

それを見た近所のおばさんが「へえ、おもしろいね」つて言つてくれたのが忘れられない。

運動が出来たらさうじこな勉強が出来たらえのじつて言われるのとは違つて、おもしろがりてくれることがまるごと私を見ててくれた気がして、嬉しくて。

今でも心としない時は立ち戻る。

私のままやと大丈夫、またそこからはじめられる。

小さな出来事だけ、自分なりに取り戻す

大切な思い出となつてじる。

遊ぶことって、その子そのもの。

だから、遊ぶことは生きること。

生きる」と面白がってくれる大人がいることはどれほどの安心感だろう。

そんなまなざしの中で、子どもの時間を

心のままに過ごせたない。

いつか彼らがおとなになつた時、今度は小さな頃の彼らが相棒となつてそこに居てくれるだろつ。

困つた時、くじけそうな時は、知恵を出し合えばいい。

そしてどうか、世界を楽しく、楽しく生き抜いてほし。

（在園児の母 やまとむ）

あそべ！子どもたち！事業



なぜ「あそべー子どもたち！事業」
を開催するのか？

出会った子どもたちと共に…

今、子どもの体験不足が叫ばれています。
どんなにたくさん自然があつても、どこ
とんあそぶ時間一緒にあそぶ仲間がない
ければ、豊かな「子どもの時間」にはなりま
せん。私たちは山や川であそぶことを特
別な体験ではなく、「日常のあそび」を広げ
るきっかけとして開催しています。

活動を通して、子どもたちの「やってみた
い」を保障することの大切さを実感して
います。

プログラムをがっちり決めて、それに子ど
もたちを当てはめるのではなく、活動で
出会った子どもたちに合わせ、企画も柔軟
に変化させながら活動を続けています。



いろんなことから解放されて 「今」を思い切り楽しむ

私が山探に初めて参加したのは、もう5年前(た
ぶん)(一〇一四年)になります。

小学生のみんなと山に行く、疲れちゃった子のサ
ポートをしながら小学生ではなかなかあそび場に
ならない「山」をみんなと一緒に感じて、楽しく登れ
たらいいな、そんな軽い気持ちで、朝、高橋不動駅に
行つたの覚えています。

しかし待っていたのは、「ドレフン(トレインラン
ニング)」なみ、「いや、トラン以上」に山を駆
け抜けた子どもでした。大人のスタッフも重い
荷物に圧倒されたのと同時に、子どもは子どもなり
の姿をしていました。

「ねえね、なんで私たち、山に登るんだろう。疲れる
し、足痛いし…」

「それはご飯を美味しく食べるためだよ。山に登つ
てお腹に飯を食べる、美味しいんだよ!!」
「たしかに、山でご飯っておいしいね!!」
と笑顔になり、また前へ前へと歩きました。

その子たちは、落ちている綺麗な葉を拾つたり、
実を見つけたり、木になりそうな木の枝を探したり
自然を探しながら歩いています。時には、「あつちは
植木に紅葉しているのに、こつちはまだね。気温
が少し違うのかな?木の種類が違うのかな?」など
子ども達同士で話しながら歩いています。

とある日の「山たん(まよひき)」での工
ビゾード。

たくさん歩いたけれど、まだ山頂につかないこと
いくことを楽しみながら走りまくっていました。そ
の姿に圧倒されたのと同時に、子どもは子どもなり
の姿をしていました。

小学生と登るからを感じることのできる自然、山
があり、子ども達と一緒に新しい発見をし続けられ
ることが、私が「山たん」に惹かれている理由です。
(山たんボランティアスタッフ みほちゃん)





日本初のブレーリーダー天野秀昭さんは、「子どもは昔から、あぶなく、きたなく、うるさい存在だった。変わったのは子どもではなく、れを「迷惑」と受け止める大人や社会の意識の方だ」とおっしゃっています。
今、子どもたちは自由に生きているのでしょうか。自分が主役の人生を生きているという実感を持てているのでしょうか。私たちは、こんな時代だからこそ、「子どもにとって本当に大切なこと」は何なのかを考え続ける大人の輪を広げていく必要があると感じています。

学習会の開催 及び 講師派遣事業



ひろげる



まなぶ

「子どもにとって本当に大切なことを子育て中の大人、子どもの育ちに関わる人、すべての人と遊びたい」と毎年無料の講演会を開催を重ねています。
二〇一八年度は開戸博樹さん(どくくん)をお招きし「虫を殺しちゃダメって子どもに言いますか?~子どもの「やってみたい」と親だから困る気持ちのはずまで~」を開催し、子どもが「あそぶことの大切さを考える時間となりました。

「あそびは 人の成長戦略」

どくくんの言葉の数々

「子どもがあそぶこと」の大切さが言葉にされていない、当たり前すぎて見えでしないことが多いのですが?

少子化ではなく大人の都合で社会が「大人化」している。
これは環境問題。

社会が介入して子どもが遊べる環境を保たないといけない。

「あそぶこと」を通して、自分の価値観を見つける。
その子自身が遊ぶことで「好き」「嫌い」「良い」「悪い」を実感として判断ができる。

「子こもは「未知との遭遇を楽しんで」と、子こもが通路から壁紙して感じる、気付く、実体験として刻み込む。
今、そういう体験が少ない。

講演に参加された方の感想

「現在の形になるまでに様々な経験をくり返されて、経験の重なりの集結ともいえます。子どもへの関わりだけでなく、母たちが地域活動のリーダーとなるきっかけになっていたり、ボランティアとして関わる大人の居場所にもなっていました。副産物も大きいのだと思ふ」
「人の想いを、子どもの想いを形に。自分たちの活動と重なる動きでもあり、たいへん学びになりました。」

【2018年度実績】
2018年 7月 羽村ブレーバーの会「遊ぶ力は生きる力へ失敗こそが宝物～」/中川
9月 日野市職員組合児童部会「子どものあそび」/中川・伊藤(たもつ)
11月 子育ていれかわりたちかわり実行委員会にて活動紹介/中川・藤浪
2019年 1月 青山学院短期大学子ども学科キャリアデザイン授業/中川

【2018年度実績】
5月12日(土) 開戸博樹氏(どくくん)講演会
「虫を殺しちゃダメって子どもに言いますか?~子どもの「やってみたい」と親だから困る気持ちのはずまで~」
講師:日野市社会福祉協議会 参加人数:90人

「思った以上に全力であそべる場所が市内にあることにびっくり!香ばかな大人とのやつていき方をもつと知りたい」
「子どもの子どもの頃の経験を思い出しながら、子どもたちにたくさんの失敗や成功体験をさせたいなと思った」
「自分たちが子どもの頃できていたことが出来なくなつた時代、どうしたら出来る場になるか改めて考えるよい機会でした」
「できない現状をなくすだけでなく、子どものあそびを保護するために大人として出来るとしてクリアすべきことを考える機会になった」

写真:日野市職員組合児童部会での感想

子どもたちの居場所を創るには、主体的に関わる大人の存在が必要です。一人でも多くの大人が「子どもの育ち」を支えることについて考える権をもくために、依頼先のフィールドに出向いて、当団体の活動やそこに込めた想いを伝えています。

講演に参加された方の感想

「現在の形になるまでに様々な経験をくり返されて、経験の重なりの集結ともいえます。子どもへの関わりだけでなく、母たちが地域活動のリーダーとなるきっかけになっていたり、ボランティアとして関わる大人の居場所にもなつた副産物も大きいのだと思ふ」
「人の想いを、子どもの想いを形に。自分たちの活動と重なる動きでもあり、たいへん学びになりました。」

【2018年度実績】
5月12日(土) 開戸博樹氏(どくくん)講演会
「虫を殺しちゃダメって子どもに言いますか?~子どもの「やってみたい」と親だから困る気持ちのはずまで~」
講師:日野市社会福祉協議会 参加人数:90人

森もまめのめも 特別ではない世の中に

「なかだの森であそぼう！」を毎日開催できるようにしたい。「野外保育まるのめ」が一般の幼稚園や保育園と同じような位置づけになつて、誰もが室内中心の保育が、野外保育が「選べる」世の中になつた。

地域の方々、学校関係者の方々に理解者を増やす、仲間を増やす、そうしないと「森もまめも特別ではない世の中」は実現されない。そう思った時、地域や行政やPTAに活動を広げるはとても自然な成り行きだった。

「行政」とか「学校」とか地域の「〇〇会の会長」とか、そういう枠組みや肩書きがあるなど、「個人としての想い」をなかなか言えない方が多い。

でも行政や〇〇長の方が、個人として我々の活動をものすく応援している、と言う人に何人も会つてきた。

「いつもがんばつてじるよな、応援してじるむす」「かわいい活動だと思っています、応援しています」「いやあ、遊びは大切ですよ、本当にそう思います」

うれしいことに、こうじう言葉もたくさん聞かせてもらってきた。立場を超えて、個人として想いを語ってくれる。組織同士、団体同士のつながりより、そういう個人の想いやつながりが、我々も知らな」ところで我々の活動を支えてくれていることがある。

何気なく読んでいるように見える森の開催も裏では様々な変遷があり、継続できている

「なかだの森であそぼう！」が無くなつて、その辺の公園や空き地がブレーべークのような雰囲気が当たり前になつてしまふ。

幼稚園や保育園では野外保育も普通に実施していく、誰もが自分の想いや存在を丸ごと受け止めてもいいじう。

そういう世の中になつたら、もう我々の存在は

「子どもにとって本当に大切なことを 社会全体で考え続けるために…」

子どもが育つ環境づくりに社会全体で取り組むためには、互いの違いを認め合い、支え合う関係が必要です。

「子どもたちにとって本当に大切なことを第一に考える社会」を実現するために、同じ目的をもつ個人や他団体と協働します。

【2018年度 主な実績】

日野市子ども条例10周年記念事業

日野市立仲田小学校学校評議員会

第3次日野市教育基本構想検討委員会

日野市子ども子育て会議 / 日野市一中地区青少年育成会

第7期日野市男女平等推進委員会 / カワセミハウス協議会

日野市子どもの貧困対策推進委員会(公募市民委員)

NPO法人ひの市民活動団体連絡会

さと@hino(まちづくり市民フェア自主企画グループ)

まちづくり人プロジェクト(日野市ボランティアセンター)

果たして「森もまめも特別ではない世の中」は理想であり夢物語なのだろうか？

「昔はみんな、こうやって遊んでいたんだよな」森や、まめのめの様子を見ながら、お年寄りの方々から聞くフレーズである。

そう、かつてこの国では普通の、ありふれた子どもたちの姿だった。それをわれわれは失ったのだ。子どもが「ひらなん」と言って手放したのではなく、大人が社会から無くしたのだ。

今を生きる子どもたちの育ちについて、真剣に考える大人を増やす。

私が今までやったことが、地域に理解者を増やすために、私が今できる事が、地域に理解者を増やすことだと思っています。(理事 小俣彰男)



2018年度を振り返って 今後の課題を考える

今年度も全般的には黒字会計となりました。正味財産が一千万円を超えて、経営が安定しているように見えます。正味財産の大部分は保育事業で積み上げたものです。

保育事業の予算は、毎年、年度当初は赤字です。年度途中で新たな出会いがあり入園者が増えることや、保育現場の様々な工夫があり、結果として黒字になるのがこの数年の傾向です。

保育以外の事業に関しては、会員の維持率が高いことや、多くのボランティアに支えられ、結果として黒字になるのがこの数年の傾向です。

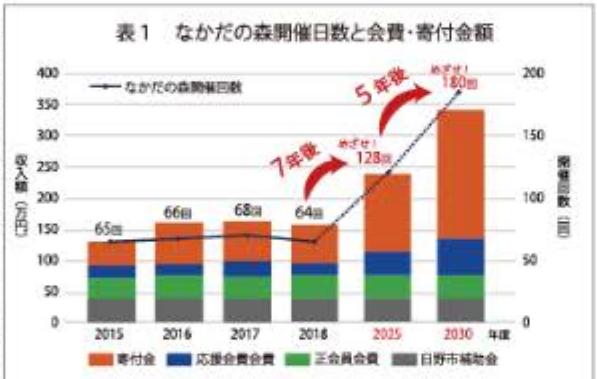
特に、「ブレーバーク」は月6回程度の開催日数ですが、子どもの居場所とするために「通年開催」が目標です。森に来ている子どもたちから「開催日数をもっと増やしてほしい」という切実な声も聞こえています。

そのためには、ますさらなる資金調達が必要です。(表1)

また、「ブレーバーク」に関わる人材も不足しています。特に、小学生の参加が増えているために、専門性を持つブレーリーダーの複数体制が必要です。今後は「ブレーバーク」に関する人材の確保と育成が課題です。昨年、活動拠点を移転するにあたり、様々な物件を見て回りました。事務所機能だけでなく、野外保育「まめのめ」の活動拠点となる場所として、子どもの自由を保障する場という視点で考えると、あまりにも選択肢が少ないことを感じました。

保育園が迷惑施設となってしまう時代です。私たちの苦労を目に見て、他の物件を考えるのはどうかといふアドバイスも頂きましたが、日野で活動することにこだわり、縁あって西平山の古民家に出会うことができました。

「縁と潮流のまち」日野で、子どもが主人公の居場所を創りつづけていくことが私たちの使命です。それには運営者だけでも、子育て中の大人だけでなく、様々な万々のご支援が必要です。二〇一九年度は、西平山古民家の地域貢献事業もスタートします。活動の原点に戻り、平山旭が丘地区で出張「ブレーバーク」を開催していく中で、子育て当事者の声を丁寧に聞き取ることから始めます。どうか、みんなの力をお貸しください。みんなの参加とご協力が、あつて初めて、子どもを真ん中に考える社会を創る第一歩となるのです。



「お帰りなさい」と言える場所

「ブレーバーク」を初めて10年。いろいろありました。私が一番いなと思うときは、「お帰りなさい」という言葉が誰からともなく発せられるとき、「お帰り」と言ってくれる場所にいるときだが不思議です。

私が育った家は、地方都市の下町の美容院住み込みのお姉さんが四人いて、両親、祖母、弟、私は年末始も含めて毎日仕事で忙しく、休日も娘子でゆっくり過ごした思い出があります。我が家は、地元の老舗結婚して子どもが生まれて、初めて自分だけだけの生活を体験しました。私だけが夫を歩けば近所の人が声をかけてくれ、では祖母や父、住み込みのお姉さんたちが事で忙しく、休日も娘子でゆっくり過ごした思い出があります。

それでもさみしさを感じながらのは、外を歩けば近所の人が声をかけてくれ、が「お帰りなさい」と言う生活はとても前が車く、自分で何でもしなければならない。という独立感をもっていました。そのとき、今まで当たり前のと思っていた環境が、実はとても豊かなものだったのだと思つきました。

なげ、「ブレーバーク」を毎日開催したいかを考えたとき、私はこう思ったのです。子どもが親以外のおとなと出会う場所、家庭以外でお帰りなさいと言つてくれる場所、そんな場所を毎日つくれたらいいな。多くの人の出会いが、次の時代を生きる子どもたちの未来をつくると信じています。(事務局長 繁波里佳)

■活動計算書

		2018年4月1日～2019年3月31日	
	科 目	2017年度 金額(円)	2018年度 金額(円)
受取会費	正会員／家族会員／応援会員	602,000	555,000
受取手附金		644,653	590,021
受取助成金等	日野市／帝人(株)ボランティアサポートプログラム	412,836	937,164
事業収益	①子どもが主人公の居場所の設置・運営	82,824	75,288
	②子どもで育ちあう保育の場の設置・運営	13,916,190	17,508,850
	③子ども時代のあそびを保障する場の設置・運営	1,987,092	2,075,000
	④子どもがいるからつながる「人の輪」	70,000	24,000
	⑤学習会の開催及び講師派遣	86,568	97,224
	⑥他団体との協働	10,000	0
	⑦情報発信	0	0
	⑧なかだの森森林公園等清掃管理	1,235,998	1,269,000
その他収益	受取利息／雑収益	22,096	2,100
経常収益	総収益	19,070,257	23,133,647
事業費	役員報酬	1,512,000	1,216,000
	人件費／法定福利費／福利厚生費	11,668,981	13,838,553
	賃闇金	88,768	151,600
	業務委託費	208,965	616,192
	印刷製本費	75,262	88,128
	会議費	28,583	27,127
	旅費交通費	761,489	1,037,311
	リース料	—	270,216
	車両費	—	74,582
	通信運搬費	119,375	185,083
	消耗品費	572,395	719,192
	修繕費	21,975	285,135
	水道光熱費	136,870	159,308
	地代家賃	632,882	636,222
	施設利用料	490,210	465,068
	保険料	166,265	187,557
	減価償却費	—	479,246
	賃借料	10,000	5,490
	融資費	29,000	28,000
	租税公課	643,580	821,765
	接待交際費	—	13,782
	新聞図書費	9,873	8,568
	研修費	35,916	32,400
	食材費	297,941	347,740
	支払手数料	37,477	155,031
	雜費	3,007	27,060
	事業費 計	17,550,814	21,876,361
管理費	賃借料	85,981	590,837
経常費用 計	17,636,795	22,467,198	
当期経常増減額	1,433,462	666,449	
経常外費用	過年度損益修正額	—	△106,003
	税引前当期正味財産増減額	1,433,462	560,446
	法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
	当期正味財産増減額	1,363,462	490,446
	前期繰越正味財産額	11,335,753	12,699,215
	次期繰越正味財産額	12,699,215	13,189,661

野外保育「まめのめ」事業収益
在園児39名と過去最高となりました。卒園児対象の事業も含まれており、収益が増加しています。

人件費／法定福利費／福利厚生費
各事業に従事する職員や外部スタッフに対する給与・ボランティア謝金です。社会保険料や正規職員の健診費用も含まれています。

業務委託費
古民家の耐震診断費用も含まれています。

リース料
野外保育「まめのめ」の送迎用バスのリース料です。移転による登園の負担を減らすため、バスをもつことにしました。

車両費
バスに係る保険料及び車検等の修理費用です。

修繕費
古民家改修費用のうち塗装替えや窓ガラス交換など、建物維持管理のためにかかった費用です。

減価償却費
古民家改修やトイレ設置工事費用を、耐用年数に応じて少しずつ分割して計上しています。

支払手数料
振込手数料や不動産仲介手数料、DVDコピー代、ネットバンキング利用料なども含まれています。

■貸借対照表

資産の部		負債の部						
科 目	2017年度会計	2018年度会計	科 目	2017年度会計	2018年度会計			
流動資産	現金・預金	13,487,698	10,252,019	流動負債	未払金・前受金等	3,758,773	2,499,231	
	未収金	296,400	860,750		未払消費税・法人税等	396,600	548,400	
	前払費用	69,289	132,592		流動負債 計	4,155,373	3,047,631	
	立替金	—	17,500		負債の部 合計	4,155,373	3,047,631	
	流動資産合計	13,853,387	11,262,861					
固定資産	建物	—	1,242,556					
	建物付属設備	—	730,674					
	ブレーバーク事業特定資産	664,290	664,290					
	保育事業特定資産	2,336,911	2,336,911					
	固定資産合計	3,001,201	4,974,431					
資産の部 合計	16,854,588	16,237,292						
正味財産の部				正味財産の部 合計				
						12,699,215	13,189,661	
						負債・正味財産の部 合計	16,854,588	16,237,292

会計事務ならびにその収支状況について、それぞれ適正に処理されていると認められる旨、報告いたします。

監事 内藤基一郎

■正会員の皆さん

青柳 真実さん/青柳 拓二郎さん/浅見 義孝さん/浅見 久美子さん
案浦 聖子さん/安養寺 義経さん/石坂 あや子さん/石田 淳子さん
伊藤 さおりさん/伊藤 杏子さん/井戸川 雅子さん/岩見 千代子さん
遠藤 美和子さん/遠藤 美花さん/大谷 吉美さん/小野 紘理さん
小俣 実穂さん/角川 ちひろさん/加藤 能子さん/菊池 幸子さん/北澤 尚子さん/近藤 千富さん
齊藤 薫子さん/佐伯 のどかさん/佐々木 ふみかさん/佐々木 美紀さん/佐々木 隆祥さん/佐藤 美保さん
繁木 京子さん/篠原 仁美さん/渋谷 貴史さん/志水 英子さん/諏訪 和さん
仙田 恵実さん/田中 美幸さん/田部井 絵美さん/田村 美保さん
千勝 里美さん/角山 由生さん/中島 愛子さん/中原 緑さん
菱山 栄三郎さん/三上 紗恵子さん/峯崎 由美子さん
村井 知子さん/茂木 俊晋さん/森田 聰子さん/安井 清美さん
柳澤 桂子さん/山崎 優子さん/山田 友子さん/山本 祥寛さん/渡辺 緹子さん/渡邊 さちさん

子どもも、子どもは
生きる力にあふれた
「生きる力」をつなげなさい。
あなたはつなげなさい。

「ふつう」って何だろう?
「ふつう」が
一番大切な?

■応援会員の皆さん

阿部 明美さん/アルサテロドリゲス 麻子さん/栗澤 雅富美さん/石川 久恵さん/石附 真弓さん/伊藤 完さん
伊藤 利枝さん/遠藤 美津子さん/遠藤 良太さん/大神 長裕さん/大村 悠季さん/大森 貴子さん/岡 純子さん
小野 美知子さん/景谷 かおりさん/加藤 知奈津さん/川手 麻里さん
漢人 陽子さん/北見 みゆきさん/桐山 理華子さん/久保 栄一郎さん
久保 七子さん/久保 結さん/熊谷 瑞紀さん/合田 みどりさん
河野 真美さん/小平 ゆりさん/小峰 奈津江さん/佐伯 有香さん/佐々木 隆志さん/佐藤 順子さん
佐藤 光昭さん/鈴木 久子さん/高野 久美子さん/瀧島 聰さん/瀧島 崇子さん/田中 香織さん/塙田 恵子さん
土屋 和子さん/長澤 香織さん/永谷 圭子さん/中村 祥子さん/二宮 加奈留さん/馬場 明子さん
濱 絵美子さん/林 麻子さん/林 宏通さん/番匠 建作さん/樋口 光男さん/深井 典子さん/深澤 和子さん
米澤 茂さん/前波 奈緒さん/宮原 洋一さん/森田 武雄さん/森田 ちとあさん/諸星 智子さん/八木 祥子さん
山形 照恵さん/横山 亜紀子さん/吉田 有香さん/若原 千尋さん/渡邊 かほりさん/渡邊 俊明さん

どんな人も皆、
昔は子どもだった。

今を生きる子どもたちに
あなたと一緒に

子どもは昔から、
あぶなく(A)、きたなく(K)
うろさい(U)存在だった。
変わったのは子どもではなく、
それを迷惑と受け止め
大人や社会の意識の方だ。』

2018年度、たくさんのご支援
2019年度も

■ご寄付を下さった皆さん

青柳 真実様/浅見 久美子様/案浦 聖子様/伊藤 利枝様/井上 雅人様
岩見 千代子様/遠藤 美和子様/大竹 久代様/大谷 吉美様/岡村 めい様
奥村 典夫様/角川 ちひろ様/片岡 久美様/加藤 能子様/桐山 理華子様/小橋 千帆様
佐々木 隆祥様/佐々木 美紀様/柴寄 順様/鈴木 将樹様/月野 真紀様/土屋 實様/角山 由生様
中川 满様/中島 愛子様/中野 寿代様/細田 美帆子様/三上 紗恵子様/満口 常之様/宮原 洋一様/村井 知子様
森田 武雄様/柳澤 桂子様/山城 隆盛様/山本 祥寛様/渡邊 さち様
かなざわ助産院様/株式会社ナイアード様/里山探検隊 とっこ様/産前産後ケアMahl様/父親学級参加者一同様
まなべ整膚療院様/野外保育まめのめ保護者有志様/野外保育まめのめ卒園保護者有志様/有限会社文京興産様

「ひとりぼっちで
子育てしている気がする…

家庭と学校・職場
以外に居場所がない
ありますか?

とって本当に大切なこと
考え続けたい。
本当にありがとうございました!
皆さんと共に!

※顔不開・氏名公開可の方のみ
※2018年4月1日～2019年3月31日にご支援いただいた方のお名前を掲載しています。

今、子どもたちは
やつアみたい!」を
やっていますか?

■2018年度役員

代表 中川 ひろみ/事務局長 兼 理事 藤浪 里佳

理事 中野 錦亨/理事 松永 由希子/理事 小俣 彰男/理事 塙本 幸治/理事 田中博之/監事 内藤 勘太郎

Vision

子どもを真ん中に考える社会へ。

Mission

「子どもが主人公の居場所」を創り続けよう!
子どもがいるからつながる「人の輪」を広げよう!

そして2019へ

今を生きる子どもたちにとって本当に大切なこと…
これからも、あなたと一緒に考え続けたい。

2019年度の事業方針は…

「くう・ねる・あそぶ」
今、遊びの価値を発信する。

子どもにとって、「遊び」は生きることそのもの /

「遊び」が大切だということは、誰もが賛成であっても

根底にある「遊びの主人公は子ども」だということを

本当に理解している人は少ないと感じます。

「遊び」は、子ども自身の「やってみたい！」が全てです。

それは大人の都合で否定したり、歪められてはならないのです。

子どもの「遊び」は、大人にとっては都合の悪いこと、

たとえば「うるさい」「汚い」「危なっかしい」ことばかり。

少子化も子どもにとってみれば大人が多すぎ世の中。

行き過ぎた大人の口出しに子どもたちは自ら育つ力を奪われていると感じてきました。

そんな状況を少しでも変えていくためには、子どもにとっての遊びの価値を

当団体の活動「ブレーバークなかだの森であそぼう！」

「野外保育ための会」「あそべ！子どもたち事業」などを通して発信していくことを

これまで以上に力を入れる必要があります。

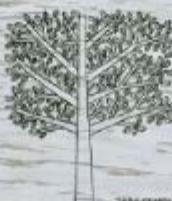
子どもたちが自由感をもって過ごせる「居場所」の意義や

活動の中で感じる子どもの姿を丁寧に発信することが

「子ども時代を保障する社会」とはどういうことなのかを

大人が真剣に考えることにつながり、

「子どもを真ん中に考える社会へ」の一歩となると考えます。



NPO法人 子どもへのまなざし

【住所】〒191-0055 東京都日野市西平山4-18-12

【TEL】042-843-1282(月~木／10時~17時)

【E-mail】info@manazashi2009.sakura.ne.jp

【Web】http://www.manazashi2009.sakura.ne.jp/

【Facebook】https://www.facebook.com/NPOmanazashi/